令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大宮西小】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 主語と述語の関係や、除法、減法など計算など基礎的・基本的な知識・技能の定着が乏しい。 【指導上の課題】 反復・習熟のための時間の確保が難しい。	⇒	業前の活動「まなぶくんタイム」での「ドリルパーク」「スタディサプリ」を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。【毎週の業前の実施】 国語の授業では、定期的に主語と述語の関係を読みとる。また、算数の授業においては、既習事項の学習内容でも、計算方法を丁寧に確認する。【該当する内容の授業】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 国語では、活動の際の目的についてすることに課題がみられる。算数では、問題場面を的確に読みとることや立式の根拠をもつことに課題がみられる。 【指導上の課題】 活動の目的の明確化が不十分である。また、問題場面や求め方などを図や言葉などで表現する活動が少ない。	⇒	国語の授業では、意図を明確にし、言語活動に取り組む。【該当する内容の授業】 算数の授業では、問題を確認する場面、練り上げの場面において、式だけでなく言葉や図などを結び付けて言語化する。【該当する内容の授業】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	漢字を文の中で正しく使う問題に課題がみられた。言葉や漢字の定着が不十分であると考えられる。 算数の除数が小数である場合の除法の計算をする問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、基本的な計算の定着が不十分なようである。また、直径の長さと円周の長さ、円周率の関係についての理解も不十分と考えられる。いずれにおいても、見当をつける力が不足していることが原因なのではないか。
思考・判断・表現	国語の目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係づけたりして、伝え合う内容を検討する問題に課題がみられた。特に長い文章や多くの情報に抵抗感があり、要点を整理する力や語句の意味の理解が不十分である。 算数の道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題に課題がみられた。距離と速さ、時間の関係の理解が不足していることや、自らの考えを説明する際の相手意識の低さが原因と考えられる。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	業前の活動や授業の時間を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指すことができた。実際に活用する場面で力を発揮するまでには今後も継続が必要である。	業前の活動「まなぶくんタイム」での「ドリルパーク」「スタディサプリ」を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。【毎週の業前の実施】 国語の授業では、定期的に主語と述語の関係を読みとる。また、算数の授業においては、既習事項の学習内容でも、計算方法を丁寧に確認する。見当をつけてから計算をする機会を設ける。【該当する内容の授業】
思考・判断・表現	B	国語の授業では、意図を明確にし、言語活動に取り組んできたが、今後も継続が必要である。 算数の授業では、問題を確認する場面、練り上げの場面において、式だけでなく言葉や図などを結び付けて言語化を図ることができた。	国語の授業では、意図を明確にし、言語活動に取り組む。【該当する内容の授業】 算数の授業では、問題を確認する場面、練り上げの場面において、式だけでなく言葉や図などを結び付けて言語化する。その際に、相手意識をもちながら行うようにする。【該当する内容の授業】

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語では、「漢字を文の中で正しく使う」「主語と述語の関係」の問題に課題がみられた。日常的に漢字を書いたり読んだりすること、主語と述語の関係を読み取ることを繰り返し行い、定着を図っていく。算数では基礎的な計算の問題に課題がみられた。あえて誤答を取り上げ、なぜ誤ったのかを分析してみたり、見当をつけてから計算に取り組んだりするなど、思考を伴って計算できるように授業でより取り上げていく必要がある。
思考・判断・表現	国語科、算数科どちらにおいても、必要な情報を読み取り、活用する問題に課題がみられた。国語では、読み取った内容を資料と結びつけること、算数では読み取った内容から立式をすることに困難さがある。さまざまな情報から必要な情報を見つける活動やさまざまな考えを結び付けながら問題解決に取り組む活動を通して、思考・判断・表現力を高めていきたい。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	B	国語科、算数科どちらにおいても、中間期見直しの改善策を実施することができた。業前の活動「まなぶくんタイム」で漢字小テストやドリルパーク、かけざんマスタークハチジュウイチ等に取り組むことで、基礎基本の定着に努めることができた。当該学年の内容だけでなく、前学年の既習事項もふり返るようにした。国語の授業で主語・述語を学習したのち、家庭学習などで復習する機会を設けた。算数の授業において、筆算の学習の際は、既習内容と関連させながら練り上げること行った。 同集団比較において第6学年は国語科の偏差値がR5年度の結果を上回ったが、学校全体としては国語科も算数科もR5年度より下回った。
思考・判断・表現	B	国語科、算数科どちらにおいても、中間期見直しの改善策を実施することができた。国語の授業では、活動の前に「なんのために行うのか」「ゴールとしてどのようなものを目指すのか」を明確にしてから学習をスタートするようにした。算数の授業では、問題解決や練り上げの場面において図や式、言葉を結びつけて言語化するようにした。さらに、ある児童が発表した解法を別の児童が説明したり、協働的な活動を取り入れたりした。その結果、児童は多様な考えをもつことができるようになってきている。しかしながら、同集団比較において思考・判断・表現の観点としての偏差値がR5年度を下回った。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	主語と述語の関係や、除法、減法など計算など基礎的・基本的な知識・技能の定着が乏しいため、引き続き定着を図る努力が必要である。それらの内容を学習する授業で丁寧に取り上げることはもちろんのこと、関連する単元を教師が確実に把握し、既習事項と結びつけながら指導できるようにする。また、学校全体の取組として業前の時間「まなぶくんタイム」を引き続き実施し、本校の課題である基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていく。定着の個人差も大きいため、児童の実態を的確に把握し、個別に必要な支援を講じていく。そのためにドリルパークなどのICTによるデータを効果的に活用する。
思考・判断・表現	国語科、算数科どちらにおいても、必要な情報を読み取り、活用する問題に課題がみられたため、教科横断的な視点として、文章だけでなく、資料や表、グラフなどさまざまな情報から適切な情報を捉え、活用する活動に重点的に取り組んでいく。